

平成 28 年度中学校武道授業（合気道）指導法研究事業



平成 29 年 2 月 11～12 日の 2 日間、日本武道館大会議室（東京都千代田区）において平成 28 年度中学校武道授業（合気道）指導法研究事業〔主催＝（公財）日本武道館・（公財）合気会・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁〕が開催された。今年度は本年 5 月に日本武道協議会設立 40 周年を記念して発行される中学校武道必修化指導書（10 分冊・DVD3 巻付）の検討を中心に行われた。

■1 日目（2 月 11 日）

開講式の主催者挨拶では、栗林孝典合気会渉外部長と三藤芳生日本武道館理事・事務局長が挨拶に立ち、次のように述べた。

栗林：「合気道の中学校武道授業への採用は 40 数校ということで、これからたくさんの中学校に合気道をご理解頂く必要があります。合気会発行の指導の手引は、中学校武道必修化に先立っ

て実施されたこの指導法研究事業において得られた知識・経験を活かし、発行することができました。日本武道協議会 40 周年を記念して発行される全武道共通の指導書・DVD を充実したものにして、広く合気道を理解していただけるよう、2 日間皆様の意見を伺いながら研究事業を進めてまいりたいと思います。」



三藤：「平成 28 年度で中学校武道必修化から 5 年が経過し、29 年度からは 10 年間の折返しとなるわけで、より内容が問われてきます。次期学習指導要領には、武道 9 種目が明記されるよう働きかけをしております。日本武道協議会が 40 周年の記念事業として発行する指導書・DVD の目的は 3 つあります。1 つ目は、武道 9 種目の周知徹底。2 つ目は、中学校武道必修化の充実に資する。3 つ目は、武道人口の拡大に役立てる。この 3 点を同時に実現しようということです。これを次期学習指導要領武道 9 種目の明記に繋げていきたいと考えております。この研究事業において、指導書と DVD の充実のための最終確認をしていただきたいと思います。」



開講式終了後、早速 DVD の上映に移った。すでに撮影とナレーションの音声入力は終了しているため、ここではテロップの確認作業のみを行った。映像とナレーション、さらには指導書の文言とテロップを比較・検証し、修正箇所を挙げていった。テロップの表現方法・出力するタイミング、字体等、細部に渡り意見が出された。

DVD テロップの確認が終了した後、指導書の検討に移った。進行役を指導書・DVD の作

成実行委員である金澤威研究者が務め、日野皓正研究者が最終的な原稿の取りまとめ役を担った。

まず、具体的指導内容の、構え・体さばき・受身・それぞれの投げ技のイラストを確認し、イラストの配置、力を入れる方向・回転する方向を印した矢印の付け方、イラストに付随するキャプションの文言の検討を行った。いずれの作業も合気道経験のない教員の目線に立ち、どういった構成にするとより伝わるか、実用性が向上するかに議論の焦点が当てられた。キャプションの対象が「取り」なのか「受け」なのかも細かく確認され、明記された。指導書の検討の際にも、必要に応じてDVDを上映し、指導書とDVDの整合性を高める作業を並行して行った。

大妻中学高等学校で合気道授業を行っている平野真央研究者より、転回足のキャプションについて、「ただ『回転する』というだけの説明では、生徒は前方向から回ってしまう場合がある。授業では『後ろ足を下げて背中方向に回りなさい』と指導しているので、その点も細かく明記してはどうか」、また投げ技のキャプションについては、「授業では最初に歩み足、送り足を学習する。技の説明の際も歩み足、送り足という言葉を使って教えている。『後ろ足を前に』という文言ではなく、『歩み足で前に』という文言を使うなどして、送り足、歩み足という言葉を使っていくようにしてはどうか」という意見が出され、修正に活かされた。同様の理由に、これまで「転回する、転換する」と表記されていた文言も、「転回足をする、転換足をする」という文言を使っていくように改案が確認された。

■2日目(2月12日)

昨日に引き続き、指導書の検討を行った。技のページの検討が終わると、熊澤美裕紀研究者より、「基本動作や技など、実技の解説が多く書かれているが、武道の特性として、合気道は実技を通して何を指すのか、稽古をすることによって生徒は何を学んだらよいのか等の説明を加えた方が良いのでは」という意見が出され、実際に以下の説明が追加され

ることが決まった。

合気道は、「取り」と「受け」を交互に繰り返す中で、ともに技の正しさを求め合い、相互に上達することを目指します。また合気道の受身は技の受けをとるばかりではなく、「取り」の動きを感じ、その感覚を自ら「取り」の時に活かして技を上達させる特徴があります。さらに稽古を通してお互いに触れ合い、つながりの中で動くことにより、相手を感じる力を高め、お互いを理解する力を養うことが合気道の目的の1つです。

続いて、これまでの検討の中で、修正の必要があるとされたイラストについて、その見本となる写真を撮影した。



四方投げのイラストの見本となる写真

最後に指導書の発送・配布先の検討を行った。合気道授業実施中学校、都道府県合気道連盟には、合気道編の単巻を発送。また合気会主催の学校武道(合気道)実技指導者講習会の参加者にも配布することが確認された。

閉講式では、研究者を代表して立木幸敏研究者が講評を述べ、最後に栗林孝典合気会渉外部長と片岡正徳日本武道館振興部副参事が主催者挨拶を述べ、全日程が終了した。

【研究者の声】

◇熊澤美裕紀研究者

中学校武道必修化が実施された当初の中学生が、現在の大学に在籍しています。大学に勤務している中で感じることは、武道系クラブの部員が少し増えているような感触があり、武道必修化の成果が少しずつ何らかの形で出ているのではないかと感じています。

◇平野真央研究者

今、まさに3学期で中学1年生の合気道授業を行っている最中です。今回新たに学んだことを今後の授業に活かしていくと共に、体育科教員や学校全体で合気道が学校の特色となるように取り組んでいきたい。